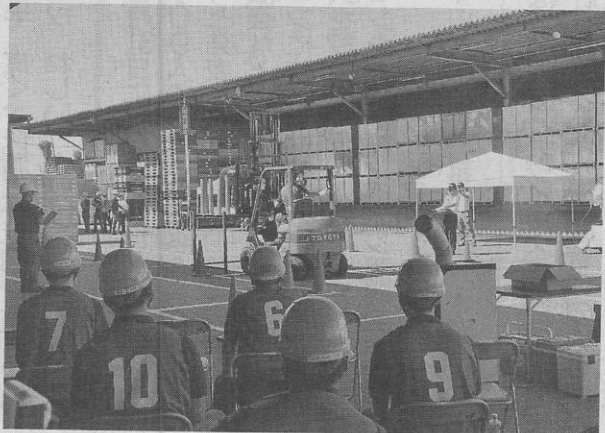


ダイセー倉庫運輸

# リフト技能を競う

リフトの走行競技に挑む選手



は、自身が入社した36年前から変わらないので、選手は自社の将来を担う役割と肝に銘じ、日頃の成果を存分に発揮して欲しい」と激励した。

選手宣誓と選手紹介に続き、始業前点検と運転の両競技を実施。事前に実施していた学科競技との合算により、個人部門は小牧第二物流センターの新卒二年目の南谷魁人選手が優勝。センター対抗部門2位までと、個人上位3人は、10月の全体会議で表彰を受ける。

閉会式で、田中毅専務は「今日は、猛暑の中での全国からの参加に感謝したい。コロナ禍では、今まで通りのやり方は難しいが、工夫を重ねて継続していくことに価値がある。当社のジャスト便の名を高める新たな一歩として、来年の大会につながっていくことを期待したい」と締めくくった。

(梅本誠治)

ダイセー倉庫運輸(吉田 憲三社長、愛知県小牧市)

は5日、小牧第二物流センター(同)でフォークリフト技能競技大会を開き、全国の物流センターから選ばれた精鋭14選手が、日頃培った技術を披露した。

リフトの知識や作業上の危険予知、安全意識の高揚を目標に、電動カウントリフトを使用して実施。コロナ禍や猛暑などを乗り越

え、3カ月遅れの開催にこぎ着けた。

開会にあたり、吉田社長が「日本の総理大臣も替わっている中、当社が脈々と築いてきた安全を維持するには、緊張する競技会を乗り越えて決意を新たにする自助努力が重要」と指摘。

その上で、「当社の根幹となる現場力は、トラックドライバーとリフトマンに支えられている。その思い